

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成22年10月28日 (2010.10.28)

【公開番号】特開2009-66031(P2009-66031A)
 【公開日】平成21年4月2日 (2009.4.2)
 【年通号数】公開・登録公報2009-013
 【出願番号】特願2007-234987(P2007-234987)
 【国際特許分類】

A 4 7 L 9/04 (2006.01)

A 4 7 L 7/00 (2006.01)

F 2 4 F 13/28 (2006.01)

【F I】

A 4 7 L 9/04 A

A 4 7 L 7/00 Z

F 2 4 F 1/00 3 7 1 A

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月10日 (2010.9.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

略棒状で機器に回転自在に取着されるロータと、前記ロータの外周に取着された清掃部材からなり、前記ロータが可撓性を有する材料又は構造で形成され、被掃除面や被洗浄面の凹凸に対応して変形することを特徴とする回転清掃体。

【請求項 2】

清掃部材を、可撓性を有する材料からなるロータの外周に螺旋状に巻き付けた請求項 1 に記載の回転清掃体。

【請求項 3】

ロータを、可撓性を有する材料からなる芯棒と、弾性を有する材料からなると共に前記芯棒の外周に螺旋状に巻き付けられたコイル部材で構成し、前記コイル部材間に形成された隙間から清掃部材を突出させた請求項 1 に記載の回転清掃体。

【請求項 4】

両端が機器に回転自在に取着されると共に、螺旋状に形成された清掃部材からなり、前記清掃部材は、ブラシ体と、断面略 C 字状で前記ブラシ体の端部を挟持するチャンネル材から構成され、被掃除面や被洗浄面の凹凸に対応して変形するバネ性を備えていることを特徴とする回転清掃体。

【請求項 5】

請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の回転清掃体を備えた掃除機用吸込具。

【請求項 6】

電動送風機を内蔵した本体と、請求項 5 に記載の掃除機用吸込具を備え、前記電動送風機と前記掃除機用吸込具とを連通させた電気掃除機。

【請求項 7】

熱交換器と、前記熱交換器の上流側に配され流入する空気に含まれる塵埃を捕獲するエアフィルターと、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の回転清掃体を備え、前記エアフィルターに付着した塵埃を前記回転清掃体で除去するようにした空気調和機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

前記従来の課題を解決するために、本発明の回転清掃体は、略棒状で機器に回転自在に取着されるロータと、前記ロータの外周に取着された清掃部材からなり、前記ロータが可撓性を有する材料又は構造で形成され、被掃除面や被洗浄面の凹凸に対応して変形するので、ロータが可撓性を有する材料又は構造で形成されているので、被掃除面や被洗浄面に凹凸があっても、回転清掃体が被掃除面や被洗浄面に押し付けられたとき、回転清掃体はその凹凸に沿うように容易に変形するので、被掃除面や被洗浄面を確実に清掃、洗浄することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

また、本発明の回転清掃体は、両端が機器に回転自在に取着されると共に、螺旋状に形成された清掃部材からなり、前記清掃部材は、ブラシ体と、断面略C字状で前記ブラシ体の端部を挟持するチャンネル材から構成され、被掃除面や被洗浄面の凹凸に対応して変形するバネ性を備えているもので、清掃部材が、螺旋状に形成されているので、被掃除面や被洗浄面に凹凸があっても、回転清掃体が被掃除面や被洗浄面に押し付けられたとき、回転清掃体はその凹凸に沿うように容易に撓み、被掃除面や被洗浄面を確実に清掃、洗浄することができる。また、芯棒などの部材が不用なので安価に構成することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

第1の発明は、略棒状で機器に回転自在に取着されるロータと、前記ロータの外周に取着された清掃部材からなり、前記ロータが可撓性を有する材料又は構造で形成され、被掃除面や被洗浄面の凹凸に対応して変形するもので、ロータが可撓性を有する材料又は構造で形成されているので、被掃除面や被洗浄面に凹凸があっても、回転清掃体が被掃除面や被洗浄面に押し付けられたとき、回転清掃体はその凹凸に沿うように容易に変形するので、被掃除面や被洗浄面を確実に清掃、洗浄することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

第4の発明は、両端が機器に回転自在に取着されると共に、螺旋状に形成された清掃部材からなり、前記清掃部材は、ブラシ体と、断面略C字状で前記ブラシ体の端部を挟持するチャンネル材から構成され、被掃除面や被洗浄面の凹凸に対応して変形するバネ性を備えているもので、清掃部材が、螺旋状に形成されているので、被掃除面や被洗浄面に凹凸があっても、回転清掃体が被掃除面や被洗浄面に押し付けられたとき、回転清掃体はその凹凸に沿うように容易に撓み、被掃除面や被洗浄面を確実に清掃、洗浄することができる。

。また、芯棒などの部材が不用なので安価に構成することができる。